

12. 予定論

Q：世間では「運命の出会いだ」とか、死ぬ間際に「これも運命か…」などと言ったりする。運命は信じるか？

「予定」は日本人が考える「運命」に近い意味で、 θ があらゆる現象を御旨のまま行うこと。人間には2タイプいる。何があっても運命だという人と、運命は全く信じず努力次第で変わると考える人がいる。どちらが正しいか？

マルティン・ルターは1483年ドイツに生まれた。そして1517年10月ルターは当時の教会で行われていた、いわゆる「免罪符」の習慣に対して「95か条の提題」を公にした。その波紋がヨーロッパ全体を動かす宗教改革となった。その基本は「聖書のみ、恵みのみ、信仰のみ」という宗教改革のいわゆる三大原理。神様の前にすべての人は平等、お金とか見せかけの努力ではなく、神様の恵み、イエス・キリストの十字架と復活によってのみ、人は救われるというものである。

〈へブル人への手紙 10：38～39〉 p.354

わたしたちは信仰に立っていのちを得る者である。

カルバンは『絶対予定説』を説いた。この時代はキリスト教が盛んで、王が教会から破門されるのを恐れるほど、教皇が王より権力を持っていた。教会は教会設立資金を募るため、免罪符を売り、免罪符を買うと罪が許されるといったが、カルバンはお金で罪は許されないし、悔い改めよと人を跪かせるのもおかしいとして、人間の運命は予め定められているという『絶対予定説』を説いた。

〈エペソ人への手紙 1：4～5〉 p.301

天地の造られる前から…あらかじめ定めて下さったのである

〈エペソ人への手紙 1：11～12〉 p.301

キリストにあってあらかじめ定められ…

〈エペソ人への手紙 2：10〉 p.302

わたしたちは神の作品であって…あらかじめ備えて下さったのである。

〈ローマ人への手紙 8：29～30〉 p.243

…あらかじめ定めてくださった。

〈ローマ人への手紙 9：15～16〉 p.245

人間の意志や努力によるのではなく、ただ神のあわれみによるのである。

→信仰の薄いローマ人に対して、神様の権威を強めるため。

〈ローマ人への手紙 9：20～23〉 p.245

器の話

〈ペテロ第一の手紙：20〉 p.367

キリストは、天地が造られる前から、あらかじめ知られていたのであるが…

Q：全てが予定されていて、人間の努力も何の意味もないことに納得できるか？神様が全て決めているならば、神様は人間を愛しているというのになぜ戦争が起こるのか。世の中の悪、飢え、貧困もなぜあるのか。

絶対予定だけでは矛盾することが聖書でも書かれている。

〈創世記 6：5～7〉 p.7

わたしは、これらを造ったことを悔いる。

〈サムエル記上 15：10～11〉 p.404

わたしはサウルを王としたことを悔いる。

〈ヨナ書 3：10〉 p.1283

彼らの上に下そうとした災いを思いかえして、これをおやめになった。

〈マタイによる福音書 26：23～25〉 p.44

(ユダの裏切りについて) 生まれなかったほうが、彼にとってよかつただろう。

〈コリント人への第一の手紙 9：24〉 p.266

賞を得るように走りなさい。

→先に全て決まっているなら順位も決まっている。

絶対予定以外にも違った予定があるようだ。以前聖書には両面性があるという話があった。

〈イザヤ書 34：16〉 p.989

連れ合いを欠くものはない。

※ これを絶対予定に対して相対予定という。

相対予定とは

〈創世記 2：15～17〉 p.2

それを取って食べると、きっと死ぬであろう。

〈マタイによる福音書 7 : 7~8〉 p.9

求めよ、そうすれば与えられるであろう。…

〈使徒行伝 16 : 31〉 p.210

主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

※ AするとBになるというように、自分の行いで未来が変わるという予定が相対予定

〈テモテへの第二の手紙 2 : 20〉 p.334

さまざまな器の話

ある人がある柿を食べたらとてもおいしかったので種を蒔いた。実がなって食べたらおいしかったのだが、全ての実がおいしかったのではなかった。同じ根っこでも枝によって変わる。いい実を成らせるには根っこに肥料を与えないといけない。よい行いをするには靈魂に御言葉を与えないといけない。

Q : さて絶対予定って何だったのか？

この御言葉を最初に得た人も絶対予定には疑問を持っていた。神様を信じているのに貧しいし、人々から馬鹿にされたりした。

その人は昔教会を建てようとして借金をした。その借金を返済するため、高麗人参の運搬事業を始めた。兄に紹介された人と 2 人で始めたが、あるときその人は町に用事があるって、借りていた教会設立資金を相棒に託して町に行った。帰ってくると相棒は姿を消していた。

しばらくして町で金を持ち逃げした相棒にばったり会って、金を返してくれといったら鉄パイプで脅されて逃げられた。神様を信じているのになぜこんな仕打ちを受けなければならないのかと祈って求めた。家に帰ってからも祈ったが答えがわからず、涙で池ができるほど泣いた。

後日の日曜日に教会で礼拝があったので答えがわかるように祈っていた。すると説教の中で絶対予定の話が出たので、こんなむごいことまで予定されているのか！と思って祈っていると幻が見えた。ピンクの服を着た大変美しい女性が見えた。とても美しく結婚したいと思うほどだった。しかしその女性は足が奇形だった。すると神様の声が聞こえた。

神様「この女性と一緒にいるなら足を切り取って美しい部分だけ愛するか」

R 「いえ、全て愛します」

するとその女の人の後ろに地球が見えた。

Q : この幻の意味は？絶対予定とどう関係があるのか。

〈ペテロの第二の手紙 3 : 8~9〉 p.374

すべての者が悔い改めに至ることを望み…

〈エゼキエル書 33 : 11〉 p.1197

悪人がその道を離れて生きるのを喜ぶ。

〈イザヤ書 46 : 10〉 p.1011

わたしの計りごとは必ず成り、わが目的をことごとく成し遂げる。

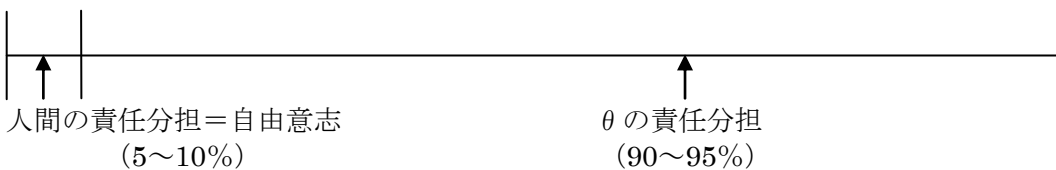
※絶対予定とは θ が悪人を含め全ての人類を救うこと。悪人にも太陽が昇り、雨が降るのもこのため。

さっきの話の意味は、女の人でも足が悪かったが全て愛するように、地球にも悪い部分はあるが神様は全て愛しているということを伝えようとした。

〈マタイによる福音書 18 : 12~14〉 p.29

百匹の羊の話

逆に相対予定は人間の責任分担を果たすか否かで変わってくる。



〈コリント人への第一の手紙 15 : 58〉 p.276

労苦は無駄にならない。

※お互いが責任分担を果たして初めてうまくいく

Q : 人間の責任分担とは？

〈マタイによる福音書 6 : 33〉 p.9
まず神の国とその義を求めなさい。

また 〈伝道の書 11 : 9〉 p.931
神様は人間に自由意志を与えた。

Q : 神様が人間に自由意志を与えたのはなぜ？

※ 反応が決まっているロボットとしてではなく、愛する対象（恋人）とするため。

Q : ここで神様は全体の 90～95%の責任分担を果たすというが、本当に果たしているのか？

〈民数記 23 : 19〉 p.222

言ったことで、行わないことがあるのか、語ったことで、しとげないことがあるのか。

Q : 神様の責任分担とは？

〈ヨハネによる福音書 3 : 16～21〉 p.139

神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。

〈イザヤ書 46 : 11〉 p.1011

私は東から猛禽を招き、遠い国から我が計りごとを行う人を招く。

猛禽＝鷲＝キリスト

〈イザヤ書 9 : 6～7〉 p.954

ひとりの男の子がわれわれに与えられた。

〈イザヤ書 11 : 1～5〉 p.957

エッセイの根から…その上に主の霊がとどまる。

神様は人間を愛し、一番大切なひとり子（＝キリスト）を送ったから、人間からも愛されて Give and take の関係を築きたかったが、人間が 0 のことを忘れて自由意志で勝手にしたので争い、憎みあうようになった。

Q : 人間がうまく責任分担を果たせなかった例としてイエスの十字架があるが、これは予定されていたことだったか？

キリストの予言には『栄光の主』と『苦難の主』の予言がある。

『栄光の主』

〈イザヤ書 11 : 10～16〉 p.958

その日、エッセイの根が立って、…

〈イザヤ書 32 : 1～8〉 p.985

見よ、ひとりの王が正義をもって統べ治め、…

〈イザヤ書 35 : 5～10〉 p.990

その時、見えない人の目は開かれ、…

〈エレミヤ書 23 : 5～6〉 p.1085

彼は王となって世を治め、…

『苦難の主』

〈イザヤ書 53 : 1～12〉 p.1021

彼は侮られて人に捨てられ、…

ユダヤ人によってイエスは『苦難の主』に。

今の時代も同じ。〈黙示録 22 : 20〉にあるように J はまた来るといったが、その再臨主にも 2 通りの予言がある。

『栄光の主』

〈マタイによる福音書 24 : 29～30〉 p.40

力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。

〈黙示録 1 : 7〉 p.386

すべての人の目、ことに、彼を指しとおした者たちは、彼を仰ぎ見るであろう。

『苦難の主』

〈ルカによる福音書 17 : 25〉 p.119

しかし、彼はまず多くの苦しみを受け、またこの時代の人々に捨てられねばならない。

〈ルカによる福音書 18 : 8〉 p.120

人の子が来るとき、地上に信仰が見られるだろうか。

今の時代の再臨主を迎えるのが人間の最大の責任分担。〈ルカによる福音書 12 : 54~56〉のように受け入れられないことがないように。キリスト観を持って御言葉を通して責任分担を果たそう。全ての人が理想的に救われるように自由意志をうまく使おう。